

# みくに



## そら豆の選別作業

今年もみくに園で栽培したそら豆が実りました。アレルギーの方のためのそら豆醤油としてお店に並びます。

高橋商店（小豆島）

HP : <https://www.shodoshima-yamamo.com/>

TEL : 0879-82-1101



社会福祉法人 みくに園  
障害者支援施設 みくに成人寮  
TEL: (0879) 68-3104 FAX: (0879) 68-3920  
〒761-4661 香川県小豆郡土庄町豊島家浦902-1  
HP: <http://www.teshimamikunien.com>

わたしたち強い者は、強くない者の弱さを担うべきであり、自分の満足を求めるべきではありません。

（ローマの信徒への手紙 15章1節）

## 「ええやん、朝ご飯に“赤福”」

総主任 高橋 香織

新型コロナウイルスの感染が世界中に拡がり、毎日暗いニュースばかりで気持ちまでどんよりとしていました。そんな時、読賣新聞の料理研究家・土井善晴氏の記事が目に留まりました。大きく掲載された土井氏の写真からは柔らかな関西弁が聞こえてくるようでした。

記事の内容は、家庭料理の世界から見た日本社会の変化と多様性について書かれたものでした。また、2018年に土井氏のツイッターへの投稿が物議を醸したときのことについても触れられていました。

「いただいた赤福のあさごはん。こんでええやん」という文章とともに伊勢名物のあんこのお菓子とみそ汁の写真を投稿したところ、「栄養のバランスが悪い」「正しい日本の朝食じゃない」というコメントが寄せられました。土井氏はそれに対し「栄養のバランスは一回では判断できない。たった一回のことだけで言うな」と反論したのだそうです。『多様性の時代と言われながらも実際には日本は多様性が認められていないんです』と土井氏は指摘しています。

確かに、私も含め今の社会は「こうでなければならない」と決めつけ、固定観念に捉われながら生活しているように感じます。周りの目を気にして、周りと同じでなければならないと思うことも多くあり、知らず知らずのうちにそれを「正しい」と思い込み、相手にも求めてしまうことがあります。障害者福祉の世界でも近年は本人の意思決定を重要視していますが、まだまだ個人の価値観に共感できずにいる場面が多く見られます。

以前「お茶漬けが食べたい」という利用者からの要望があり、私達はここぞとばかりに色々な具材を準備し張り切っていました。でもその方は白米にお茶をかけるだけで、それはもう何とも言えない美味しいそうな顔で、さらさらと食べていたのです。「それだけでいいの?」と思いながらも、自分の勝手な思い込みに気付いたことをこの記事を読みながら思い出しました。施設での生活はそれぞれの個性を後回しにしがちです。改めて今回のこの記事から、一人ひとりの価値観や生活スタイルが違うこと、お互いに認め合い、共感することの大切さを学びました。

利用者が赤福の朝食が食べたくなった時、当たり前のように「ええやん!」と言える、そんな施設でありたいと思います。

## 日中活動の再開

新型コロナウイルス感染拡大予防のための自粛期間も終わり、活動が再開しました。みくに園の日常もようやく元に戻りつつあります。各活動では密を避け、消毒を徹底し、利用者が充実した活動を行えるように工夫を凝らしています。以前のように利用者の楽しそうな顔や「ありがとう」の言葉が溢れる活動が当たり前にできることの幸せを実感しています。



屋内活動



洗濯班



アート活動



音楽療法



卓上活動



ラジオ体操

# 新型コロナウイルス対策について

新型コロナウイルス関連のニュースに一喜一憂の毎日です。

記憶に新しいと思いますが、3月下旬に千葉の障害者施設にてクラスターが発生した際は、保護者の皆さまも心配されたのではないでしょうか。該当施設においては、障害の特性もあるため重症者のみ医療機関に入院となり、軽症者や濃厚接触者などは施設での療養となりました。

この事態を受け、みくに園でも日頃の感染症対策に厚みを持たせ、コロナウイルス対策として検温と消毒を徹底し、3密を避け、「何としてもみくに園に持ち込まない」を合言葉に日々努めています。合わせて、万が一に備え作業棟をコロナ専用棟として整備し、全職員に周知しました。すぐに使用出来るよう備品を整備し、どこが（何が）レッドゾーンなのかがひと目でわかるように赤いテープを貼ったり、写真や図解を掲示するなど「目で見てわかる」工夫をしています。棟内だけでなく、建物まわりの草を刈るなどして環境を整えました。また、職員も自宅に帰らずその場で生活出来るように、洗濯機や乾燥機、冷蔵庫を始め様々な場面を想定して準備しています。幸いにもまだ使用するに至っていません。何とか、このまま使用せずに収束をして欲しいものです。

現在、東京では第2波と思われる感染者が多数報告されており、再びじわじわと地方に波及していく恐れもありますが、引き続き感染予防策を怠らないように日々職員一同励んでいます。



<シュミレーションの様子>



<レッドゾーン>



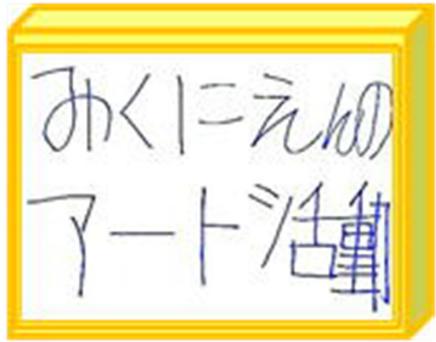
<ゾーンの色分け>



<靴の用途別色分け>

新型コロナウイルスは高齢者や基礎疾患を持つ人の致死率が高くなっています。また、新型コロナウイルスは学校、介護施設、劇場等で集団感染（クラスター）が起こりやすい状況にあります。みくに園においても、集団感染拡大防止のため、直接面会や帰省を制限しました。しかし、家族等との面会や帰省は利用者に「精神的な安定」をもたらすもので、長期的な制限は好ましくないと考えています。「どうしているのかな？」「元気に過ごしているかな？」そんな離れて暮らす家族の気持ち、利用者の思いを伝え合い、安心していただける良い方法を模索中で、今後はテレビ電話システムやビデオ通話等のインターネットを利用したオンライン面会を行うことも検討しています。

(医務 記)



タイトル文字  
繁朋宏

6月からアート活動を無事に再開することができました！丸々3か月遠ざかっていたのでペースを取り戻すまで少し時間がかかるてしまうメンバーもいるのでは？と心配していましたが、いざ始まってみれば皆さん活動休止の影響などほとんど感じさせず、前向きに取り組んでいます。

絵画、工作、手芸など、制作に没頭する時間は生活の中に新鮮な空気を吹き込んでくれる大切な時間です。人数の多いグループは2班に分けて活動時間をずらし、机と机の間隔をあけて密度を低くするなどの配慮をしつつ、皆さんがこれまで通りのびのびと過ごせるように工夫しながら、毎日心も体もイキイキと過ごすためのお手伝いができるよう心がけています。

(吉野 記)



トートバッグに刺繡をする三枝美津子さん



制作中のイスにペンキを塗る松本憲武さん



広告を丁寧に切り貼りする岡本みどりさん



ドライバーで角材にネジを締める齋藤幸浩さん（手前）  
クレヨンで絵を描く繁朋宏さん（奥）



色鉛筆で絵を描く米田信弘さん

## サーキュレーターを設置しました

サーキュレーターとは、扇風機とは異なり、遠くまで風を起こすことで室内の空気を循環させる家電製品です。各棟に2台ずつ食堂やロビー等の利用者が密集する場所に置いている他、アート活動や音楽療法の場面でも利用し、感染予防に努めています。



## 1番館食堂の洗面台が新しくなりました

今まで1人用の洗面台で手洗いを行っていました。1番館は利用者の人数も多く、いつも行列ができていました。新しい洗面台は蛇口が3ヶ所になり、3人ずつ洗えるようになりました。順番を待つのも分散され、密になりません。また、職員が横につき手洗いの介助もスムーズに行えます。手洗いの重要性を改めて伝えるきっかけにもなり、期待以上の良い効果を実感しています。



今年のバレンタインデーに生まれた2匹のヤギの赤ちゃんが大きくなりました。毎日お母さんヤギと一緒にペーター小杉さんに連れられてみくに園の周辺の草を食べ歩いています。



## 編集後記

春から続くコロナの影響と大雨での災害、日本中で多くの方が苦しく辛い状態にあるかと思います。ニュースなどを見る度に、早く良くなりますように、早く復旧が進みますようにと願って止みません。しかし「早く以前のように」と願うものの、みくに園でもコロナが流行する前の生活には戻れずにいます。これから少しずつかもしれません、生活の中の楽しみを取り戻し、利用者の心と身体の健康を守っていきたいと思います。

\*みくにだよりへのご意見をお待ちしています。  
E-mail:kgk03317@nifty.com FAX:0879-68-3920